

藺浦健太郎 外務副大臣 歓迎挨拶
第39回 日本・米国南東部会 日米合同会議レセプション
2016年9月20日（火）
於：帝国ホテル「富士の間」

ただいま御紹介頂きました、外務副大臣の藺浦です。

本日、第39回日本・米国南東部会日米合同会議のウェルカムレセプションにおいて、御挨拶する機会を得ましたことを大変光栄に存じます。

私の地元・千葉県浦安市とフロリダ州・オーランド市とは、ディズニーランドをきっかけとした姉妹都市として交流を続けており、個人的にも米国南東部に対しては、親近感を感じているところです。

そして、ディズニーを生んだ、かのウォルトディズニーは、「Disneyland will never be completed.」「ディズニーランドの成長に終わりはない」との名言を残しています。

これはまさに、日米関係にも当てはまるのではないかと思います。明日の議論が、日米関係の永続的な成長、発展に寄与することを期待しております。

さて、本年は、我が国がホストとなり、G7伊勢志摩サミット、及び関連閣僚会合が、各地で開催されました。また、日米二国間では、オバマ大統領、ケリー国務長官が現職閣僚として初めて被爆地広島を訪問し、両国が中心となり、平和への強い想いを世界中に発信しました。

このような歴史的な年に、ここ東京で、日本・米国南東部会合同会議が開催されています。約40年にわたり、毎年、日米のビジネスリーダーや多数の自治体関係者が一同に集う会議は、南東部会の他に類い希であり、日本と南東部との強固な関係をアピールする象徴的な場です。

日本の最大の同盟国である米国との連携を深めていく中で、地方は重要なパートナーです。米国に投資している国のうち、最大規模の国は日本です。例えば、岡村議長が名誉顧問を務める東芝は、南東部を中心に事業所を構え、今年の4月に空調設備の開発を行う現地法人を新たに立ち上げたばかりです。また、朝田会長の丸紅は、幅広い分野において米国中で活躍していますが、南東部では農業関連の事業会社を経営し、地域経済に貢献しています。

このように、南東部会に参加されている7州に関しては、製造業・農業・食品と幅広い分野で日本から企業が進出し、15万人以上の現地の雇用創出や、直接投資を通じて、地域経済に多大なる貢献をしており、大変誇らしく思います。

更なる日米関係の発展に向け、政府としては、具体的な取組を通じて一層努力していきたいと思います。そのような取組の中で、今日、日米両国にとってとりわけ重要なのがＴＰＰです。

昨今の米国大統領選挙における議論や Brexit 等に代表されるように、世界経済が不安定要因を抱える中、保護主義の台頭を抑止するためにも、政府としては、臨時国会でＴＰＰの早期承認を求めています。

併せて、米国でも早期に議会の承認が得られることを強く期待しています。千載一遇のこの機会を逃すべきではありません。

また、日本を訪れる外国人旅行者数を増大させることにも注力して参ります。米国南東部よりお越しの皆様も、是非この機会に日本の食、文化、ソフトパワー、おもてなしの精神等、「クール・ジャパン」の様々な魅力を多面的に体験、発見していただき、日本の魅力を各方面に積極的に発信していただくことを期待しております。

最後に、第３９回日本・米国南東部会日米合同会議が盛会となり、両国関係の益々の発展に寄与することを祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。